

しまね学生インターンシップ(2023春期) 実施報告アンケート集計結果【参加学生】コメント抜粋

記述1.実施形態に対する満足度(抜粋)

【対面】

- ▶ 対面は、職場の雰囲気を理解できたり、より会話をスムーズにグループワークを行えた。
- ▶ 実際に現場に行って現場の空気感を感じることができた。
- ▶ 今までやったことないことも体験できたり、実際に現場に同行させていただくことができ、インターンシップに行かなくてもできない体験をできた。
- ▶ 実際の工場の現場を詳しく見学することができ、一部の機械の操作までさせて頂いた。
- ▶ PCR検査や抗原検査といったコロナウイルス対策に十分気をつけて実施されていると感じた。
- ▶ グループでの話し合いは、対面だからこそお互いにさまざまな意見を言うことができ、また会社の雰囲気を感じることができた。
- ▶ 充実した内容で、グループで協力して発表を行わせてもらうことができた。
- ▶ 対面だったので質問がしやすかった。また、実際に仕事をする所で作業をしたので働く感覚を掴みやすかった。
- ▶ 初日見学の後3日実習、最終日発表という対面の強みを存分に生かした実施構成だった。

【ハイブリッド】

- ▶ 目的に沿った実施形態で良かった。
- ▶ 何事もなくスムーズに進むことができた。
- ▶ ハイブリッド型であったために対面でなくとも十分伝わる内容の企業紹介などをオンラインで行い、討論など対面が向いているものは対面で行っており使い分けが良かった。

【オンライン】

- ▶ 島根と京都を行き来していたのでオンラインだと受けやすかった。
- ▶ オンラインでも十分雰囲気などを知ることができたが、対面だともっとよかったのかなと感じる。
- ▶ 社長の方とお話する機会があって良かったが、実際の業務を体験してみたいと思っていた。

記述2.実習内容に対する満足度(抜粋)

- ▶ 業務の疑似体験や、グループワーク、取引先訪問など、仕事について理解を深めるだけでなく、学生同士や職員の方といろいろなお話をし、就職後のイメージも持てた点がとてもよかった。
- ▶ 実際に対面で他学生とグループワークを行ったり、企業の社長と対談をしたりなど、非常に質の高い時間を過ごすことが出来た。
- ▶ 自分の今の力がどれくらいなのか、課題点は何なのかを知ることができた。
- ▶ プログラミングで不安はあったが、社員の方が分かりやすく指導してくださったり、座談会などもありたくさん話す機会があった。
- ▶ インターンシップに参加することで将来の展望も見え、新たな道も見えた。
- ▶ 3日間で全ての係で実習させていただき、現場での実習もあった。また、職員の方としっかりとコミュニケーションを取ることができた。
- ▶ 管理栄養士としての仕事体験をさせて頂いたが、自分に足りないものや将来どうなりたいかなど具体的なことを知ることができた。
- ▶ 事業内容の説明のみならず、新入社員の方との交流会やあいさポーター研修など充実したプログラムで、有意義なインターンシップ期間を過ごさせてもらった。また、社会人としてのマナーも沢山教えていただき、学びの多いインターンシップになった。
- ▶ かなり実務に近い体験、お客様のお話を聞くことができた。
- ▶ 現場見学で一部の機械を実際に操作させて頂いたり、就職活動全般に役立つ内容のセミナーを受けさせて頂いたりすることができた。

▶ 色々な体験をさせていただいたり、お話を聞ける機会を設けていただきました。参加者が私一人だったこともありインターンシップの内容も私の目的に合わせたプランにいただきより充実した学びができました。

▶ 事前に興味があることを伝えていた部署の業務を体験する時間を頂いただけではなく、その他の技術系の部署が担う実際の業務も体験させて頂き大変充実した3日間を過ごすことが出来た。

▶ プロから福祉について、看護について教えていただくことができたから。利用者の方との交流の機会も多く、働くイメージができた。

▶ ペアワークが楽しかった。企画、開発、発表を体験できた。

▶ 業務上インターンシップ生による仕事体験が難しいとはいえもう少し仕事を体験できる活動がしたかった。

▶ ノーコードでの開発体験があったので、プログラミング未経験でもITでのモノづくりを体験できた。

▶ 社長の方とお話する機会があった。

記述3.参加日数に対する満足度(抜粋)

▶ 5日間行くことで会社の中身の部分をしっかり見る事ができた。

▶ 同じインターン生とも仲良くなれたし、段階を踏んで最後の開発までできた。

▶ 3日間が早く終わったような感覚がしました。3日間充実したプログラムを計画して頂き、まだ様々な業務を体験してみたいという気持ちになりました。

▶ パワポ作成など大変だったが、短い時間や限られた中で仕事を仕上げることも大切だとわかった。

記述4.社員との接点や指導に対する満足度(抜粋)

▶ 可能であれば、もっと多くの方と意見交換を行いたかった。

▶ 進捗度をこまめに確認していただき質問がしやすく、最終日には座談会もあり話す機会が沢山あった。

▶ 座談会で、仕事のことや専門的なことだけでなく、ワークライフバランス等も知ることが出来た。

▶ 1対1のインタビュー形式で多くの話をきくことができた。

▶ 関西で就職と迷っていた時に、相談に乗っていただき貴重なお話を聞くことが出来ました。

▶ 仕事でもたまに話しかけてもらえたり、コーヒーやお菓子をいただいたり、一緒に話し合いながら仕事もできたし、送迎してもらってたくさん会話が出来た。

▶ 非常に温かく歓迎して頂き、就活の悩みを相談させて頂いたり、現場の機械についてや事業の状況などを詳しく解説して頂いたりすることができた。

▶ 座学の時間はマンツーマンでしっかりと教えていただき、質問事項が尽きるまで丁寧に答えてくれました。現場に立つ時は、質問などで声をかけた時でも、皆さん忙しい中答えてくださった。何をしたいかわからない時に、声をかけて仕事を与えてくださってうれしかった。

▶ もう少しコミュニケーションを取りたかった。

▶ インターンシップ生全員と社員さんという場面が多くなるので、もっと一対一で話せたら嬉しかった。

記述5.インターンシップ参加後に対する満足度について(抜粋)

▶ インターンシップに行くことで企業の良さが分かり、この企業で自分も働きたいと思うことができた。

▶ 未来の自分の想像がかなりできた。

▶ 島根県で就職活動をしようとするきっかけになった。

▶ 職員の方と交流する時間を沢山設けていただき、職場の雰囲気や仕事に対する姿勢・思いなどがより伝わりやすく、多くのことを学ぶことができたように感じた。

▶ 社内の雰囲気は感じれたが、実際の仕事体験は無かった。

事業内容について知ることができ、そこに関わっておられる職員さんのお話(入職された理由、大変なこと、好きなところ)をお聞きすることができました。言葉で説明されていてもなかなかイメージできなかったのですが、見学、体験することで、ほんやりしたものが、完璧ではないですが、形になったような気がします。参加後は、参加前よりも、もっと事業所や利用者さんについて知りたくなりました。

- ▶ 発表をする機会があったが、実習先の取り組みを学んでから、参加者と一緒に作成出来たら良いと思った。
- ▶ ノーコード開発を通してIT技術を用いたモノづくりの面白さと難しさを体感できた。
- ▶ 多くのことを体験でき、自分の足りないところなどについて分析することができた。
- ▶ 4日目までの内容は満足できる部分が多かったが、最終日が発表準備と発表のみだったのは少しもったいなく感じた。
- ▶ オンラインでのインターンだったので、対面であってお話したいと感じた。

記述6.インターンシップを行う事業所への要望(抜粋)

- ▶ もっと多くの社長様と対談し、議論を行いたかった。
- ▶ 職員の方が実際に働いているスケジュールなどを、1人について体験するか教えてほしい。
- ▶ 部署を希望した上での参加で、自分の関心に沿った実習ができ、非常に勉強になった。時間があれば、実際に勤務すれば異動もあるため、他の部署についてもどのような業務を行うか、簡単に紹介していただけるとありがたいと感じた。
- ▶ インターンシップ生の担当してくださる方以外はあまり喋る機会がなかったため、自分の積極性が1番の課題であるが、そのような場を設けて欲しかったかなと思います。
- ▶ 職員さんの一日のスケジュールが分かる企画などがあれば、より事業内容がイメージしやすいと思った。
- ▶ リアルな仕事内容を見せてほしい。
- ▶ 当日の参加人数などが分かっていたらスムーズに活動できたかなと思います。
- ▶ 実際に職場で作業をしたかった。
- ▶ 事務所で何をしたらしゃるか見る(聞く)ことができたならよかった(多くの個人情報があり難しいと思いますが…)
- ▶ 個人情報(具体的な家の場所や家族構成)はこちらから言わない限りはあまり追求しないで欲しかった。
- ▶ お客様の抱える課題に対する解決例を知れると良いと思った。
- ▶ 服装について、「動きやすい服装」とあっても、オフィスカジュアルなどのフォーマルな服装が良いのかスーツで行くべきか迷ってしまうので、「スーツ以外」「オフィスカジュアル可」など詳しい情報を記載して欲しい。
- ▶ 女性の社員さんだけと質疑応答などをする機会も欲しかった。
- ▶ 他の部署の方々との交流をもっと充実させたものにしたかった。
- ▶ 企業へのエントリーについての情報をもっと知りたかった。
- ▶ 写真や動画を撮っていいところを教えて欲しかった。
- ▶ 私のインターンシップ先はとても良かったので不満は微塵ありませんが、おそらくその理由の一つに上に「質問などしやすい雰囲気」というのは大いにあると思います。したがって、インターンシップを受け入れてくださる事業所さんにはそういった雰囲気を醸し出してほしいと多くの学生が願うのではないのでしょうか。
- ▶ 1人でやるのもいいのですが1人ではなくもう少しグループワーク活動がしたかったです。
- ▶ 発表の準備についてインターンシップ生全体で共有し統一してほしい。

記述8.インターンシップ後の就職志望度について(抜粋)

【志望している】

- ▶ 明確に働いている自分をイメージすることが出来た。

▶ グループで何かを作ることが面白く達成感があった。

▶ 将来はweb関係の仕事に就きたいと考えており、今回は話や業界研究がしくて参加したため、プログラミング関係のお仕事をしたいと意識は変わらなかった。

▶ 既に金融機関で就職しようとは考えていますが、まだどの企業を第一志望にするかは決めかねています。ですが、今回のインターンシップで私自身好印象を抱いたので、今後の参考にしていきたいと考えています。

▶ 自分の実力不足を知ることができたし、ある程度経験を積んでから会社に就職したいと思った。

【志望していない】

▶ 業務内容が自分に合っていないと感じた。

▶ 魅力は感じるが自分の考えと方向性が違った。

▶ 自分がしたいことがないため、業界を少し体験しようと思い参加し、とてもためになるインターンシップであったが、この業界には自分にはあまり向いていないと感じた。

▶ インターンシップ参加前と比較するとIT業界に興味は湧きましたが、他の業界のインターンシップにも参加してみたいと思った。

▶ インターンシップ前に比べて興味の度合いは増したものの、1つに定まった訳では無いです。

▶ 興味はあるものの、実際に就職したいかはまだ決まっていない。

▶ 今回のインターンシップが初めてだったので、様々な企業を知り、自分が本当に就きたい職はどれかを選択するために様々な業界を知る必要があると感じた。

▶ 就職先として志望していなかっただけで業界に非常に興味があり応募した。今回実際に体験することでその意思が固まるきっかけとなった。

記述9. 今回のインターンシップ全般についての気づき

▶ IT業界はプログラミングの所が多いためその他の仕事体験があれば嬉しいです。

▶ もう少し管理栄養士や栄養士のお仕事が体験できる企業の候補があったら良いなと思いました。

▶ 宿泊施設を選ぶのに手間取り、またインターンシップ先と宿泊施設との距離がかなりあり公共交通機関もなかったためインターンシップ先に通うのに苦労した。

▶ 8時30分～18時までと、1日の実習時間が長いように感じた。

▶ インターンシップに参加する人数を事前に知れたら良かったと思う。

▶ 県外に出てしまった学生に対して、県内の学生同様に呼びかけることができるとさらに島根県の企業に就職したいと思う学生が増えるのではないかと考えた。

▶ 実施形態に関しての要望です。インターン先を選ぶ際に、対面とオンラインを分けるなど形態を見やすくして欲しかった。

しまね学生インターンシップ(2023春期) 実施報告アンケート集計結果【受入事業所】コメント抜粋

記述1 目的達成について(抜粋)

【おそらく達成できる】

▶ 会社の魅力が伝わったと思う。

就職活動前で学生はそれぞれに目的意識を持っており、新聞社、当社の仕事は理解してもらえたと考えている。入社試験を受けてくれるかどうかは学生によって温度差があった。社員にとっては学生を指導したり、話をする中で自らの成長につながったと考えている。

▶ 過去には採用につながったこともある。また、社員のモチベーションアップにもつながっている。

▶ インターンシップに来て頂くことで、学生さんへの対応等、こちらも学ばせて頂く良い機会になったと思います。

▶ 弊社の基幹業務について実習を通して理解していただけた手応えがあったため。

- ▶ 若手社員に指導の経験を積ませることができた。
- ▶ 弊社の取組について理解頂けたと思う。
- ▶ インターンシップをサポートすることにより貢献できたものと思う、また、学んでいただくことができたと確信。
- ▶ 学生の就職目的と合致しなかった部分があったように感じた。
- ▶ これまで参加していなかった職員も講師として参加した。
- ▶ 仕事について深く学び理解いただいたことが感想で挙がったため。
- ▶ 期間中、複数の業務に関わって頂き、会社の様子を多少は知って頂けたと思います。
- ▶ 学生さん本人が福祉の業務内容について学びたいという気持ちをお持ちだったので講義・体験を通して伝わったと思います。
- ▶ 仕事に対して非常に積極的であった。
- ▶ 学生より、IT業界の関心が増したとコメントを頂いたため。
- ▶ 企業について知ってもらうことができた。しかし、採用につながるかはまだ不明なため。
- ▶ 大人数ではなく、少人数の方がしっかりと話ができるように思います
- ▶ 学生が求めている働き方を伝えることができたと思うが、学生が実際どう受け止めたかが分からない。
若手社員の接点を多少設けたため、双方に刺激を受けた。

【達成できる または 達成できた】

- ▶ 非常に興味を持ってくれた学生が多かったため。
- ▶ インターンシップに参加した社員からのヒアリング、学生の様子から。
- ▶ 実施後のアンケートで満足したという回答を貰ったため。
- ▶ 受入経験を通して受入プログラムを充実させたり、社員への刺激になるような機会となっているため。
- ▶ 最終日に福祉の業界にとっても興味を持ったと話して下さったため。
- ▶ インターンシップ体験の学生に良い体験が出来たと言ってもらえたので。
- ▶ インターンシップの参加から選考につながっている。
- ▶ インターンシップを通して弊社に興味を持っていただき、インターンシップ後に再度ご来社いただくことが決定したため。また、入社1年目の社員にインターンシップを担当させたことにより、社員の成長にもつながったため。
- ▶ インターンシップにきていただくことで、意識も高まり社員の成長に繋がっています。
- ▶ 担当者を若手社員にする事で、説明する力などを付けさせる事が出来た。
- ▶ 参加された学生さんが今後の選考を希望されているから。また、今回初めてインターンシップに携わった社員がおり、その社員のコミュニケーション能力の向上に繋がったと思うから。
- ▶ 学生さん目線での感想などを頂き、参考になりました。

【達成できない】

- ▶ 建設業への興味は弱いため。

記述2 よいインターンシッププログラムとなるように、自組織で工夫したこと(抜粋)

- ▶ 新入社員との座談会でリラックスし、経験談を聞くことでより会社の魅力を伝える。
- ▶ 事務職を希望していると初日に聞いたので、業務を具体的にイメージできるようなプログラムを用意した(経理関係)

▶ 学生の希望する業務を経験できるよう受入部署を調整した。

▶ 現地体験、現地見学を盛り込むようにしている。

▶ レストランやフロントなど実際に現場に入って頂きました。お客様への接客を身をもって感じて頂けたかと思います。

▶ より実践に近い形で体験してもらいたく、取引先へ出向いて社長様に話を伺った。

▶ インターンシップ担当社員に若手社員を起用した。事前に学生さんへ希望する実習内容を確認した。

▶ 担当社員の専任。朝会、夕会で学生とのコミュニケーション。

▶ 1つの部署だけではなく、複数部署でのインターンシップを計画したこと。

▶ 若手社員と接する機会を多くし、学生に近い目線で働くことのイメージをさせやすいようにした。

▶ プログラムを事前に作成したが、学生の要望により適宜内容を変更した。

▶ 参加者が1名だったので事前にどのようなことを学びたいかを聞きそれに基づくプログラムを作成した。

▶ より実務に近い課題を用意、インタビューなどで社員とのコミュニケーションの機会を作り、最終フィードバックを行った。

▶ 複数事業所の体験・見学を予定し、法人の事業について幅広く知ってもらうこと。学生の振り返りの時間を毎日とったこと。

▶ サンプル品ではあるが、図面作成から完成までの一連の業務を体験できるカリキュラムを作成し、最後にサンプル品を記念品として持ち帰ってもらい、仕事をしたという実感を持ってもらえるように工夫した。

▶ 事業計画の策定体験、顧客への提案体験を通じてやりがいのある内容を追求、社員との交流、特に社長自らが常時対応して学生さんの状況に応じた対応を心掛けた。

▶ ドローンの体験、課題選択式。

▶ グループワークではこちらが介入せずに、学生の主体性に任せて実施をした。

▶ 参加講師や課題内容を毎回変えており、常に新しいインターンシップとなるよう努力している。

▶ 多くの社員との交流の機会、時間の短いプログラムを組み合わせる内容、休憩をこまめにとるなど、以前受講させていた
▶ いただいたインターンシップセミナーの内容を参考に実施しました。また、全社員へインターンシップ生を受け入れることの周知を何度かしました。

▶ インターン中のスケジュールを社員が共有しながら、様々な業務に関わって頂くようにしたこと。また、社員との対話を積極的に行うようにしたこと。

▶ 講義を聞き体験から理解へ繋がるようにしました。

▶ 入社1年目の若手社員から10年以上のベテラン社員まで、なるべく多くの社員と交流し、視野や考え方を広げていただけるよう工夫しました。

▶ 高校での経験や大学での経験を踏まえてプログラムを作った。

▶ 若手社員をメンター役につけて学生も相談しやすい環境にしたこと。

▶ 実際に企業で行っている体験をしてもらい、会話をする機会を増やし緊張をほぐすことで、自分らしさを出しやすくなった点。

▶ 会社の雰囲気や伝わるように実際社員が働いているスタッフルームでインターンシップを行いました。

▶ 仕事の話以外のコミュニケーションを常にとるように心がけました。

▶ 学生と従業員が話せる機会をできるだけ作るようにした。

▶ 部署毎ではなく、職場全体でインターンシップの学生さんとのコミュニケーションを取れる様にレクリエーションなどを実施した。

▶ できるだけ多くの社員と関われるようにした。

- ▶ オーダーメイド型にした。
- ▶ 去年のインターンシップを参考に今年のプログラムを組み立てた。
- ▶ 学生さんのインターンシップに参加した目的を最初に確認してから、進めました。

記述3 全体を通した満足度の理由(抜粋)

【大変満足】

- ▶ 我々の事業について知ってもらえた、また今後も島根に関わるきっかけを見つけてもらえたため。
- ▶ 興味を持ち当庫について理解していただいた感触を受けたため。
- ▶ 円滑にインターンシップが進行できたと共に学生さんに積極的に取り組んでいただけた。
- ▶ 聞く姿勢がしっかりした大変真面目な学生で、こちらも学ぶ事が多かった。
- ▶ 今回の学生さんは目的意識をしっかり持っており、それを自分の言葉ではっきりと表現できる学生さんであった。
- ▶ 会社としてインターンシップは初めての試みだったが概ね予定通りに進行できた。
- ▶ 社員の活性化と学生の職業体験の目的が達成できたこと。また学生に弊社を知ってもらえたこと。
- ▶ 社員の成長にもつながり、学生の方には弊社の魅力も知っていただけたため。
- ▶ 期間内に課題も達成し、学生と企業がwin winであった。
- ▶ 学生にとってアンケートも満足が多く、メンター役につけた社員も成長できたから。
- ▶ コミュニケーションも良く、ハキハキとした挨拶で社員の良い刺激になりました。
- ▶ 参加学生から楽しかった、面白かった、という感想をいただけたから。何より選考に繋がったから。
- ▶ 人の目を見てしっかりと受け答えができていたため、意思疎通がうまくできたと感じたため。
- ▶ 今回は学生さん1名でしたので、内容の濃い話が出来て良かったです。

【やや満足】

- ▶ プログラム内容が学生にとってよかったかわからない。
- ▶ もう少し参加学生が多ければ尚よかった。
- ▶ 冬季であることと年度末の繁忙期であり、十分なプログラムと期間が準備できなかった。
- ▶ インターンシップに参加した社員からのヒアリング、学生の様子から。
- ▶ 受入期間によって内容を変更したり、社内の協力体制に課題があるため。
- ▶ スケジュールを詰め込みすぎてしまった感じはあったが、法人の事業を幅広く知ってもらうことは出来たと思う。
- ▶ 内容的には満足し、学生さんも得るものが有ったものと思うが、準備や対応など更に工夫の余地がある。
- ▶ 自分がかつと綿密に予定を立てていればもっとよかったと思う。
- ▶ 業界知識すらなかった学生に、多少なりとも興味を持っていただけたと思う。
- ▶ 熱心に参加いただきましたが、初めての受け入れで見直すべき点もあったため。
- ▶ まずは企業のことを知っていただきかけたため、Zoomと対面どちらでもお話をすることができたため。
- ▶ 毎回同じ内容になってしまっている。
- ▶ 5日間というスケジュールでは、学生さんの時間があまり有効な活動が行えなかった。
- ▶ 早い段階で双方の目的や適性にズレがあった場合、5日間のインターンは長いように感じるため。

【どちらともいえない】

- ▶ 学生によってインターンシップに臨む姿勢に差があったため。
- ▶ 建設業への興味は弱い。

記述4 受け入れた学生の課題や問題点のみ抜粋

- ▶ 事前に確認していた交通手段と違う方がいて、予定変更した。
- ▶ 3人の学生ともあいさつを含めたマナーは問題なく、自ら質問する積極性があった。数人の学生には「話を聞く際のうなずきがもう少しあるといい」といったことを伝えた。
- ▶ 居眠りをする学生がいました。
- ▶ 特筆してあげるところは無いが、強いて言えば挨拶が元気よくできるとなお良かった。
- ▶ 初日の遅刻者、書類の不備(多数)
- ▶ 何でも良いので質問して頂いたり、自分から発信させることができたらなと見ていました。
- ▶ こちらが基本的な発信で、もう少し積極的な姿勢を見せてほしかったと思います。
- ▶ 元気のよい挨拶等がない。

記述5 インターンシップについて困ったこと、気になったこと

- ▶ 学生の話や聞くと、県内でもオンラインインターンシップが多く、個人的には残念だなあと感じました。島根の人の温かさ、つながりの深さを体感してもらいたいのので今後は対面実施が増えることを期待しています。
- ▶ 今回はなかったが、学生さんによって時間を調整したい。特に遠方の方は朝が早くなるため。
- ▶ 学校の単位取得を主目的としていること。距離が近いからなど、来社理由が企業側の期待と異なっていること。
- ▶ 三省合意の改正により、今回の内容だと来年度からインターンシップに含まれなくなるのだろうか…と思った。
特に困ったことはありませんが、業務体験の中で、どこまでが体験で、どこからが仕事になるのか、その線引きが難しかったので、仕事に直接関係の無いサンプル品の製作体験をしてもらったが、果たしてそれが本当の職業体験ということになったのか、気になっています。
- ▶ 弊社の準備、受入れなど、余裕を持った対応の点で課題が残った。
- ▶ 最終日にコミュニケーションシートを本人に渡すことは記入時間、内部の確認などプログラム実施と並行し行うことは難しいと感じました。
- ▶ 弊社として、受け入れる時期については検討が必要と感じました。
- ▶ 始業時間と終業時間を少し考えました。